



神戸 YMCA 東日本大震災復興支援活動報告書 2014

Contents

- ▽ ごあいさつ
- ▽ 募金活動
- ▽ I'm a Partner Camp
- ▽ リフレッシュファミリープログラム
- ▽ 被災児童支援制度
- ▽ パートナーとともに
- ▽ 復興支援活動 3 か年計画



ごあいさつ

Message Shinji Inoue, General Secretary, Kobe YMCA

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災ならびに福島第一原発事故の発生から4年が経ちました。しかしながら今も多くの方々が避難生活を強いられています。

神戸YMCAでは2014年度も様々な復興支援活動を行ってまいりました。神戸近郊に避難されている方々への支援活動として、自然の中でのファミリーデイやファミリーキャンプを行い、また、避難されている子どもたちがYMCAの活動へ参加しやすいように支援するなどの活動を継続してきました。また、福島の小中学生をYMCAが運営する余島へ招待してのI'm a Partner Campも夏休み、春休みに実施しました。このキャンプはこれまでに6回実施され、のべ225名の子どもたちが参加しました。ファミリーデイやファミリーキャンプでは保護者の方々もともに企画から実施までをともにしていただく動きが始まりつつあります。

お一人おひとりに寄り添い、ともに歩んでいく。そのようなことを大切に活動を継続していきたいと思えます。この冊子を通して、2014年度の神戸YMCAの支援活動を報告申し上げますと共に、2015年度も皆様からのご支援をお願いいたします。



神戸YMCA 総主事
井上真二

全国の避難者等の数（2015年3月12日 復興庁調べ）

- ・全国の避難者等の数は、約22万5千人
- ・全国47都道府県、約1,160の市区町村に所在
- ・兵庫県内の避難者等の数は、883人
- ・兵庫県内の避難者のうち616人は住宅等（公営、応急仮設、民間賃貸等）、267人は親族・知人宅等

◆街頭募金活動

東日本大震災発生以降、神戸 YMCA では、東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会を中心に募金活動を継続して行ってきました。この募金は、特に避難されているご家族のリフレッシュファミリープログラムに活用させていただいています。多くのボランティアが、震災から4年が経過した今なお、月に一度街頭に立ち、声をあげ続けました。

2014年度をもちまして、毎月の街頭募金活動は終了することとなりました。2015年度は4回街頭募金を実施する予定としています。回数は少なくなりますが、これからも募金をお願いすることだけでなく、震災のことが風化しつつある今、人々の心に「忘れないことの大切さ」を呼びかけていきます。



2014年度街頭募金報告

4月27日	12,683円
5月25日	14,622円
6月18日	18,025円
7月6日	6,483円
8月31日	12,577円
9月28日	18,454円
10月19日	10,988円
11月3日	1,684円
11月16日	13,263円
12月21日	35,538円
1月18日	33,391円
2月22日	11,914円
3月1日	122,343円
合計	311,965円



◆パートナー募金

2012年春、YMCA 同盟（全国 YMCA 連絡組織）による「三菱商事 YMCA フレンドシップキャンプ」が全国展開されるのを受け、神戸 YMCA 余島センターで「ダイヤモンドキャンプ」を開催しました。フレンドシップキャンプは2012年度をもって一旦終了となりましたが、「福島の子どもたちに引き続き支援を！素晴らしい余島の自然を！」との声が広まり「I'm a Partner プロジェクト」が立ち上がりました。

2014年度は、I'm a Partner Camp 実施のために、490万円の募金が寄せられました。おかげさまで夏休み、春休みに計58名の子どもたちを招待することができました。

I'm a Partner Camp は2016年春まで継続して計画、実施されます。これからもより多くのパートナーとの出逢いを喜びたいと思います。



◆幸せの黄色いレシートキャンペーン

2014年度より、ダイエー三宮駅前店で「幸せの黄色いレシートキャンペーン」の助成対象団体として登録をさせていただきました。

2014年8月～2月の間に、神戸 YMCA のBOX に総額615,713円の黄色いレシートをご投函いただきました。このレシート合計金額の1%に相当する6,157円のハートポイントカードを贈呈していただき、I'm a Partner Camp で必要とする薬品や事務用品を購入させていただきました。レシートを投函してくださった皆さま、本当にありがとうございました。



◆福島の子どもたちに希望を

香川県小豆郡に位置する無人島「余島」。神戸 Y M C A が 1950 年から、豊かな自然の中でのキャンププログラムを通して、多くの指導者を世に輩出してきました。パートナーキャンプは 2013 年夏の第 1 回から、14 春、14 夏、15 春と 4 回を数え、のべ 137 名の福島の子どもたちを無償で招待することができました。これには、大変多くの方々のご支援があります。総額 1300 万円を超える資金は、すべて個人や企業からの支援によって賄われています。

2015 年春のキャンプ。霧に包まれた余島の朝に、テロのニュースが入りました。アフリカのある大学が襲撃され、100 名を超える大学生が亡くなりました。朝の会、子どもたちに「みんなも知っているとおり、いま、世界ではとても残酷な事件が起こっている。今朝もアフリカでテロがあって、みんなと一緒にいる大学生が 100 名以上も亡くなった。人は何故、人を傷つけるのだろうか？」朝の光がゆっくりと差し込みました。「人は人のことを、心から傷つけたいと思っているのだろうか？」するとある子どもが、首を横に振りながら「うん。きっと怖いから・・・」とつぶやきました。「そうかもしれないね。自分が怖いから人を傷つけてしまう。では、相手が怖い時、どうしたらいいだろうか？」子どもたちは朝霧の中、真剣に考えだしました。「では、質問を変えよう。じゃあみんな目をつぶって・・・。今までにお友だちを、少しでも殴ったことがある人？」これには正直な子どもたちが数人手を挙げる。「では、お友だちをつねったことある人？」多くの手が挙がる。「では、自分はそのつもりはなくても、お友だちを悲しませたり、泣かせたり、困らせたりしたことがあると思う人は？」ほぼ全員が手を挙げました。「はい、目を開けて。どうだろう。リーダーからお願いがあります。人に優しくしてほしい。これからみんなは大人になる。もし大人になって人の上に立つ立場になったら、権力を持つ立場になったら、この話を思い出してほしい。力を持った人間が、自分の怖さゆえにその力を行使すれば、多くの人間を傷つけてしまうかもしれない。だから注意してほしい。でも、今度は逆に、自分の勇気を振り絞って人に優しくすることができるなら、今よりもっと多くの人間を、救うことができるかもしれない。」

被災者支援から始まったキャンプは、今は未来のリーダーを育む、大切な場となりました。「真剣に生きる」子どもたちの未来にこれからも寄り添っていきたいと思います。



◆2014 年度 I'm a Partner Camp のご報告

I'm a Partner Camp Summer 2014

期 間：2014 年 7 月 27 日～31 日
参加者：小学生 30 名、中学生 3 名 (Jr.リーダーとして)
ボランティア：11 名
協 賛：サントリーホールディングス (株)
協 力：
神戸 YMCA 東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会、
Ladies & Gentlemen よしましよ、
NPO 法人ルワンダの教育を考える会、
兵庫県ユニセフ協会、生活協同組合コープこうべ、
公益財団法人神戸 YWCA、
公益財団法人日本 YMCA 同盟、
社会福祉法人神戸 YMCA 福祉会、
学校法人神戸 YMCA 学園

I'm a Partner Camp Spring 2015

期 間：2015 年 3 月 31 日～4 月 4 日
参加者：小学生 25 名
ボランティア：10 名
主 催：Ladies & Gentlemen よしましよ、
共 催：公益財団法人神戸 YMCA
協 力：
神戸 YMCA 東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会、
社会福祉法人神戸 YMCA 福祉会、
学校法人神戸 YMCA 学園

◆すべての家族に笑顔を

リフレッシュファミリーキャンプは、2015年度に生まれ変わります。

震災の時に大学1年生だったボランティアリーダーが卒業し、社会へと巣立って行きました。当時中学生だった若者は、今大学生になって、このプロジェクトを牽引するようになりました。そして、あの時生まれた子どもは4歳に。震災直後とは違うニーズが、避難されている方々の間で生まれてきました。

同時に、長引く原子力発電の問題は、社会に様々な問題を提起しています。中でも「被爆」に対する知識や想いは人それぞれで、その価値観の違いから人間と人間の絆が分断しています。

2015年3月、リフレッシュファミリープログラムと復興支援リーダー会の集いには、多くの若者が集まりました。そして、今後1年間は、これまでのファミリープログラムを継続するとともに、「いったい私たちは今、置かれたこの状況の中で、一人一人が心豊かな暮らししていくためには何ができるだろうか」という問いのもと、街頭募金、倫理ミーティング（Ethics Discussion）などの活動を毎月1回続けていくことを決定しました。

これからますます深刻化していく諸問題に、真正面から向き合っていきたいと思います。今後ともご支援をお願いいたします。

◆2014年度リフレッシュファミリープログラムのご報告

そうだ！春だ！山へ行こう！！

日程：4月20日
活動場所：市ヶ原
参加者数：8家族25人



そうだ！ホテルを見にいこう！

日程：6月14～15日（1泊2日）
活動場所：伊丹市立野外活動センター
参加者数：16家族47人



冬野菜を収穫してあったかいご飯でまったりタイム

日程：2月7日
活動場所：中農園
参加者数：12家族30人



六甲山に春の息吹を見つけに出かけよう！

日程：3月21～22日（1泊2日）
活動場所：六甲山YMCA
参加者数：8家族25人



◆すべての子どもに成長を

神戸 YMCA では、東日本大震災によって被災した児童の心身の健康な成長を支援することを目的として、2011～2014 年度まで YMCA の日常プログラムやキャンプへの参加費用を助成する支援制度を実施してきました。

被災地と神戸での 2 重生活などで経済的にも厳しい状況にあるご家族が多くいらっしゃる中、少しでも子どもたちが未来への希望をもって、楽しさを味わうことができればと願っています。2015 年度より神戸 YMCA 子ども奨学金制度にて支援いたします。

以下に保護者の方のメッセージをご報告いたします。

参加者の声 1

キャンプ最終日、迎えに行った帰り道、とても楽しく過ごした様子を話してくれました。東北に住んでいた時は、スキーを気軽に楽しむことができたのですが、関西に住むようになり、スキーの経験をなかなかさせることが出来ませんでした。おかげでスキーを経験することができ、感謝しています。スキーはもちろん、団体生活することにおいても成長し、とても貴重な体験ができたことに感謝しています。

参加数日前にふと震災を思い出したようで、トラウマになっている、と震災後初めて口にしました。そんな思いもあり、複雑な気持ちのままでの参加でしたが、帰宅後はすっきりした表情だったことに安心しました。ありがとうございました。

参加者の声 3

戻ってきた時の笑顔がすべてを物語っていました。少しずつ言葉として出来事を表してくれますが、それだけではない自分の中で得たものが毎年増えていき一人の人間として成長していると感じます。

人の中において自分というものの存在を感じ、心の中でどう思っているか、それが行動を通してどう伝わっていくか等今から回数を重ねる毎に輪をかけていくことでしょう。ゆっくりと着実に年を重ね後世にこのプログラムに参加させていただいている想いを違う形で帰していけたら子どもは更なる成長をとり、日本の平和に繋がることと信じています。深く感謝いたします。

参加者の声 2

参加させていただき、本当にありがとうございました。始めは緊張して、前日に至ってはだんだんと母と離れて一人で 2 泊 3 日のプログラムが怖くなったのか、行きたくない、と出ず始末。不安や恐怖に打ち勝つ強い心も育ったと思います。帰ってきてからは一変、本当に楽しく全てのプログラムを満喫させていただいたようです。またお友だちもできたそうで、新しい出会い、人とのふれあい、スポーツや自然とのふれあいの多くの機会に感謝です。リーダーからは「失敗は成功の素」という事を教わったそうで、これまで失敗を恐れ消極的であったり、また失敗すると恥ずかしさから逆ギレしてみたりということがあったのですが、今回、この教を学んで、少し失敗を恐れず積極性が身についたかな、と思います。

母子避難中で母ひとりでは教えられない多くのものをご教授くださり心から感謝申し上げます。

参加者の声 4

スキーは初めてでしたが、本当に楽しかったようで、とてもいい顔で帰ってきました。土産話も尽きませんでした。

素晴らしい体験をありがとうございました。母子避難に 3 人の子育てとともに厳しい状況で、このようなキャンプに参加できる機会をいただけて本当にありがたく、心から感謝申し上げます。

2013 年度の実績

のべ 38 件のプログラムに参加。
支援総額 2,359,886 円

- ◆ キャンプ 19 件
- ◆ 日常プログラム 18 件
- ◆ 短期講習会 1 件

2014 年度の実績

のべ 60 件のプログラムに参加。
支援総額 3,796,872 円

- ◆ キャンプ 34 件
- ◆ 日常プログラム 24 件
- ◆ 短期講習会 2 件

パートナーとともに ~That they all may be one.~

◆企業・団体の皆さんとともに

私たちは震災当初より、本当に多くの支援者と活動を続けてまいりました。今後もボランティアの皆さまと共に、歩みを進めていきたいと思えます。

まずはじめに、街頭募金をはじめ、本当に多くの、お名前も存じ上げない方々に励ましと募金をいただきました。こちらにお名前は記載できませんが、想いを共にして下さるすべてのパートナーに感謝を込めて。

学校法人啓明学院

ミッションスクールとして目に見えないものに心を注ぐ教育を実践される啓明学院。2014年度も、夏休みと春休みに実施された I'm a Partner Camp において、子どもたちのリーダーとして活動を展開。子どもたちにとってあこがれの存在であり、未来のモデルとなりました。これからも活動をともにしていければと思います。



神戸市社会福祉協議会

東日本大震災の発生以来、ボランティアバス派遣や宮城の中学生招待キャンプなどで協働をしてきました。2014年度は、2013年度に引き続き、避難されているご家族対象のリフレッシュプログラムとして、コープこうべとともにエコファームでの収穫体験をともに実施いたしました。



株式会社 光陽社

活動報告書や募金リーフレットの作成にあたり、ご支援をいただいています。多くのパートナーとともに進める様々な活動を、より多くの方々に知っていただくために、今後もよりよいソースを作成していければと思います。



生活協同組合コープこうべ

東日本大震災の発生以来、ボランティアバス派遣や宮城の中学生招待キャンプなどで協働をしてきました。2014年度も、2012年度から継続している福島子ども保養プロジェクトとして兵庫県ユニセフ協会とともに福島の子供を余島に招いてのキャンプを実施いたしました。



サントリーホールディングス

夏休み、春休みに実施した I'm a Partner Camp において、大きなご支援をいただきました。移動距離が長く、交通費などの費用も大きくなるプログラムですが、計画通りのキャンプを実施することができました。まだまだ必要とされる、福島の子供たちへの支援を今後も継続していければと思います。



Ladies & Gentlemen よしましよ

余島応援団として 2012 年に設立されました。I'm a Partner Camp を実施するにあたり、ファンドレイザーとして延べ 200 名を超える個人・企業に募金を呼びかけてくださいました。また、キャンプにもボランティアとして参加され、記録 Movie 作成など多大なご支援をいただいています。



ルワンダの教育を考える会

福島を拠点に活動し、ルワンダに小学校を建て、子どもたちの教育をより良くしようと活動されているマリー・ルイズさんが代表を務める会です。I'm a Partner Camp では、地域の学校との連携を担ってくださっています。今後ともに歩んでいければと思います。



希望ある未来へ、ともに

復興支援活動 3 か年計画 2013～2015 年度

神戸 YMCA では、震災から 4 年が経過した今なお、必要なことを考え、声を聴き、下記のような活動を継続して実施してまいります。

I'm a Partner Camp (福島の子ども招待キャンプ in 余島)

福島第 1 原発事故による放射能の影響は今後も続くことが予想され、子どもたちが屋外で遊ぶ機会を提供することが求められます。また、小学生参加者が中学生、高校生時代に、ジュニアリーダーとして、リピート参加することを促すことで、受ける側から与える側へとリーダーシップの養成も進めていきます。

このプログラムに関しては、他団体との協働実施も想定し、計画をしていきます。

ファミリープログラム

2015 年 3 月末時点で兵庫県内に避難している方は 883 名。福島第 1 原発事故による放射線汚染収束の見通しが立たない中で、多くの方がストレスを抱えられています。そのことを踏まえ、今後も年 3 回の日帰り週末ファミリープログラムと年 2 回の週末 1 泊キャンプを計画、実施していきます。

このプログラムに関しては、復興支援リーダー会が計画、実施の中心を担っていきます。

子ども奨学金制度

被災地との二重生活を送られ、経済的に余裕のない状況にあるご家族が多くいらっしゃいます。その中で子どもたちが、心身ともに健やかに成長していくことを願い、神戸 YMCA では子ども奨学金制度を設けています。

この制度により、神戸 YMCA のキャンプや水泳などのプログラムへの参加費が助成されます。

募金活動

東日本大震災復興支援募金として、クレジットカードや振込などでの募金の他、震災リーダー会が中心となる街頭募金活動も 2015 年度末まで継続実施していきます。

支援すること = 忘れないこと。すべての人々がともに寄り添っていくために街行く人々に呼びかけ続けたいと思います。



「Big Heart」は英語で「思いやり」「やさしさ」を意味します。
YMCA は、人々の心に寄り添う支援を続けます。

YMCA Big Heart Project は、津波による被災地、福島第一原発事故による放射能の影響を受ける地域、そして避難をしている方々が暮らす全国各地で、全国の YMCA・学生 YMCA・ワイズメンズクラブが協力して行う、復興のための活動です。

1. 未来を創る子どもたちを育む

子どもや青年が、自分たちの“いのち”を守り、豊かな自然を愛する心を育みます。

そして彼らが、未来を創る主人公となるよう、リーダーシップの育成に努めます。

2. すべての“いのち”が光り輝くように

あらゆる世代の人々のクオリティー・オブ・ライフの向上を支援します。

また福島第一原発事故による影響から、子どもたちを守る努力を続けます。



神戸 YMCA 東日本大震災復興支援活動報告書 2014 2015 年 5 月発行

神戸 YMCA 〒651-0002 神戸市中央区北野町 1-1 新神戸オリエンタルアベニュー 2 階

TEL : 078-241-7201 E-mail : info@kobeymca.org